

3つの物づくり

富士吉田教育部 教授 長谷川真紀子

今年はコロナ禍ということで、3密にならないような環境でどのような活動ができるか、何か楽しいことができないか、学生さんたちと相談し「物づくり」を企画しました。9月はフラワーワークショップを自然教育園で行いました。約30名の学生さんは園内のコスモスやススキ、吾亦紅などの秋の花材を思い思いに使い、花器も好きなものを選び、アレンジメントづくりに没頭していました。10月はススキでフクロウづくりをしました。学外に出られない学生さんのために、富士吉田市の農業公園近くのススキ草原に行き、200本ほどのススキの穂をとってきて、あらかじめ乾燥させておいたものを使用しました。個性豊かなフクロウたちがたくさん完成し、皆さん大満足でした。フクロウ家族の写真も撮れました。11月はクリスマスリースづくり。材料の買い出しは教員が行い、百合寮で学生さんが自由にリースを作ることになり、可愛らしい作品がたくさんできました。毎回マスクをし、すわる距離をとって今年ならではの光景でしたが、何より楽しい楽しいという笑い声や、良い寮生活の思い出ができたとの声が聴かれたのをうれしく思いました。



寮監挨拶

コロナ高寮生活と至誠一貫

創立以来、昭和大学が掲げる精神は「至誠一貫」。至誠一貫とは中国の儒学者、孟子の言葉「至誠にして動かざる者いまだこれあらざるなり」が起源で、誠意を尽くせば、必ず人は動かされるという意味です。これは、常に相手の立場に立ってまごころを尽くすという意味であり、言いかえれば、「痛みを抱える患者さんに対し、医療に従事する者はまごころを持って接する」ということです。昭和大学ではこれを建学の精神として学生教育を実施しています。

2020年4月より、すみれ寮寮監として新たなスタートを切るべく、体調を整え準備万端のはずが、新型コロナウイルスの大流行となり、

寮監着任のご挨拶

4月1日付で、富士吉田校舎寮監に着任いたしました。前勤務の大学病院では、主に外科系病棟を担当し、手術を受ける患者さんの看護、病棟管理、学生指導、卒後教育等に携わってまいりました。

4月7日「COVID-19」感染拡大による緊急事態宣言の発令により入寮は延期され、感染対策を強化し、8月末からの入寮となり、11月2日に完全退寮となりました。学生の受け入れに向けて、学生の安全を最優先に考え、全教職員が協力・準備・行動している姿を拝見し、「部門連携」の大切さを改めて感じ、「至誠一貫」の精神に繋がっていると思いました。学生の皆さんにとっては、様々な制約のある環

寮生活を通して得られる仲間づくり チーム医療の基礎となるより良い人間関係の形成を願って

昨年度昭和大学病院を定年退職し、心新たに今年度より富士吉田校舎寮監として着任しました。今年度は新型コロナウイルスの影響で、十分な感染対策のもと8月31日に入寮式を行い、白樺寮は元気な91名を迎えました。部屋はそれぞれ4学部混合メンバーで、学生同士はすぐに打ち解けていましたが、私は全員がマスク着用だったため、なかなか顔と名前が一致せず、失礼ながら事あるごとに部屋番号と名前を聞きながらの毎日でした。

2か月間という短い期間でしたが、元気な挨拶と学部を問わず学生が楽しく交流する姿を見て、大学病院勤務時代、毎年迎えていた学

富士吉田校舎 寮監 相澤 寿子



学生・職員の安全を考えて入寮が8月末となりました。寮監として赴任後も、昭和大学横浜市北部病院でのリリーフ勤務の経験を活かし、教職員や学生の新型コロナウイルス検体採取を校医指示のもと複数回実施することになりました。

日常の寮生活では、「至誠一貫」を意識しながら学生と接するように努めています。早くコロナが収束し、富士吉田での学生生活を実りあるものにできるよう全力でサポートできればと考えています。

富士吉田校舎 寮監 菊地美恵子



境ではありましたが、制約の中での授業、自己学習、仲間との交流、イベント等を通して結束力が高まり、「医療人の卵」として多くのことを学ぶ機会になったと思います。学生の皆さんの若さと、はじけるエネルギーを、皆さん自身の目標達成に向けて、主体的に行動し成長されることを願っております。寮監としては、これまでの経験を活かし、少しでも貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

富士吉田校舎 寮監 小田原良子



部連携実習を思い出しました。4学部混合チームで一人の患者さんを受け持ち、それぞれの専門的立場から治療プランを深く検討する実習ですが、その時に忌憚なく意見が言い合っていたのは、ここで人間関係の形成が実を結んでいたからだと確信しました。将来チーム医療の担い手として活躍するであろう学生が、より良い仲間づくりができるように徹力ながら生活面でサポートしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

入寮式 PCRから始まった寮生活

医学部医学科 美島 秀俊 (中央大学附属横浜高等学校出身)

8月28日からの3日間にわたるPCR検査で新型コロナウイルス陰性を確認後、私たちの寮生活は始まりました。

入寮式は初対面の人たちに囲まれ緊張しましたが、医療人になるという同じ志を持った仲間たちに親しみを感じました。また、初めて歌った校歌は、自分が昭和大学の一員になったことを実感させ、昭和大学宣言では、医療人となる自覚を新たに持つことができました。

小口理事長、久光学長、倉田富士吉田教育部長、堀川富士吉田教育部学生部長から入寮・入学の祝辞と温かいお言葉を頂きました。建学の精神である至誠一貫に基づいた素晴らしい教育、寮生活が私たちにもたらすであろう多くの稔りについて伺うことができ、私はこれから始まる富士吉田での学生生活に胸を弾ませました。

今年の寮生活は、これまでのものとは異なっていたかもしれませんが、しかしそれでもなお、このこの寮生活は私たちにとってかけがえのないものとなりました。

最後になりましたが一人も新型コロナウイルス感染者を出さずに寮生活を送ることができたのは、富士吉田教育部の先生方ならびに関係者の皆様のご尽力によるものと思います。誌面をお借りして御礼申し上げます。



初年次グループワーク 学部の垣根を越えて

薬学部薬学科 石川 託也 (向上高等学校出身)

三日間のグループワークでは、4学部混合のチームで、PBL(問題解決型学習)を行いました。これは、8人でひとつの小グループになり、課題を自分たちで決めて学習するActive Learning型の授業です。1日目は与えられたシナリオからグループ全員で疑問点を見つけ、学習し、討論を重ねます。最終日(3日目)には、学習成果を発表するため、原稿やPowerPointの作成、発表の練習などを行いました。

最初は、初めての授業形式に戸惑うところもありましたが、他学部の学生と共に課題を行うことで、一人では思いつかない考えや意見に刺激を受けました。

また、足りない知識については、学部混合の強みを生かして情報を共有したり、専門的な分野まで深く調べたりするなど、それぞれが自分の役割に使命感を持って取り組むことができました。こうした経験を通して、将来行う

チーム医療の在り方や心構えなどを、身をもって学ぶことができました。

グループワークでは、専門的な知識を広く、深く、そして自分から学んでいかねばなりません。また、コミュニケーション能力も必要になります。これらの経験を通して、医療人としての自覚や大学における勉強の仕方学ぶことができるのです。みなさんも積極的に授業に取り組んでみてください。



初年次BLS BLSを通じて学んだこと

保健医療学部理学療法学科 松坂 香乃 (上満南高等学校出身)



この実習では、傷病者に見立てたBLSの練習用人形を用いて、一時救命処置の流れや心肺蘇生法およびAEDの操作方法について学びました。

実習を行う前は、倒れている人を発見したときにどのような手順で、どのような救命処置を行えばよいか、知識がありませんでした。そのため、仮にこのような現場に遭遇したとしても、自分には救命処置を実践できるほどの知識や技術はないと感じていました。しかし、BLSの実習を通して、一次救命処置の流れや心肺蘇生法、AEDの操作方法について学ぶことができたので、現場でのイメージを以前よりもつけることができました。この実習全体を通して、倒れている人を発見した場合に、勇気を持って「何か一つ」でも行動に移すことが大切であると感じました。この実習で学んだことを将来の医療現場だけではなく、日常生活でこのような現場に遭遇したときに、救命のリレーをスタートさせられるような医療従事者を目指していきたいと思ひます。

白樺寮

昭和大学 富士吉田キャンパスだより 第38号 2021.3.3発行

発行責任者 富士吉田教育部長 倉田知光
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 田中周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



「河口湖大石公園より」富士吉田教育部 前田昌子准教授 撮影



新任のご挨拶

富士吉田校舎校医 教授 木村 聡

このたび学校医として着任いたしました木村 聡(きむら さとし)です。新参者ですが、ひとつよろしくお願ひ申し上げます。前任地の昭和大学横浜市北部病院では、おもに感染管理を担当しておりました。着任が新型コロナウイルス流行と重なりましたが、皆様のお役に立てる機会があればと思います。なお今春、同じく富士吉田教育部に着任された相澤寿子 寮監さんは、一緒に北部病院で感染管理室を立ち上げた盟友です。合わせてよろしくお願ひいたします。

よく言われることですが、新入生にとって富士吉田で過ごす1年間は、他学にない特別な体験であり、医療者として他者を思う心を育てるには極めて有用と思ひます。とはいえ初めて親元を離れ、相部屋に入る寮生活は、(少なくとも一部の学生さんには)相当な精神的プレッシャーにもなり得るため、手厚いフォロー体制が必要に感じられます。とくに令和2年度はコロナ禍でオンライン学習が増え、寮から外へ出る機会も限られました。例年になく相当な心理的負荷がかかってしまったかもしれません。これも長い昭和大学の歴史の1ページとして、指導のノウハウ蓄積に役立てて行ければと思ひます。

私が初めて富士山を見たのは中学の修学旅行でした。その大きさに圧倒(！)され、いつか富士山の見える場所で仕事をしてみたいと思っておりました。富士山のパワーを拝領し微力ながら鋭意精進いたしますので、よろしくご指導のほどお願ひ申し上げます。



教授を拝命して

富士吉田教育部 教授 小倉 浩

2019年8月6日付で教授を拝命してから、早いものでもう1年半が経過しました。業務の上では会議が明らかに増え、前から感じていた「教授の先生は会議が多くて大変そうだ」という予感が正しかったことを、身をもって実感しています。しかし、そのような感想も吹き飛んでしまうくらい、2020年は激動の1年でした。言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症の影響です。学生が入寮できるのか、入寮したとして寮生活や授業をどのように組み立てるのか、入寮できなかった場合に授業はどうするのかなど、関係者がそれぞれの立場で真剣に悩んだ2020年3月、4月の状況は記憶に新しいことと思ひます。

富士吉田教育部の適応能力の高さ(方針決定後ほとんど間をおかず5月から遠隔授業を実施したという事実から、多少事情を知っている他の医療系大学と比較しても、あり得なくらいに迅速に対応することができた)および学生の素直さ(短い入寮期間であっても、多くの学生は「真剣に」交友関係を深めようと努力をしていた)を強く感じた1年でした。この原稿を書いている2020年末時点では、感染は収束する気配を見せずに逆に拡大中であり、全く先が見通せない状況です。それでも、2020年を通じて私が感じたことは教育部に関係する多くの方が感じたことと重なっていて、それが今後のさまざまな状況に対峙する財産として確立されたものになったと感じます。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日々成長を続けて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願ひが込められています。

撮影のためにマスクを外した写真もあります

「写真のみ提供者」 薬・衣澤 美玖さん 薬・中澤 彩音さん

体育祭

寮対抗体育祭。今年も開催!

歯学部歯学科 池本 慎太郎
(愛媛県立今治高等学校出身)

9月20日(日)、入寮後初のイベントである体育祭を今年も無事に開催することができました。今年の体育祭は、新型コロナウイルスの影響で例年とは全く異なった状況でしたが、感染防止の観点から密にならぬよう細心の注意を払い、企画しました。

晴天時は、綱引きやリレーなどを行う予定でしたが、当日の天気は残念ながら雨だったため、みんなでドッジボール大会をやり切りました。今年は安全確保のためキャンパスから外出できず、学生のストレスも少しずつ溜まり始めていましたが、ストレス発散の良い機会となり、みんな全力で楽しみました。

このようなイベント長を担うのは初めてだったので非常に不安でした。しかし、イベント後に多くの人から「楽しかった!」と言ってもらえて、部門長を頑張っただけで良かったと感無量でした。今回の体育祭で大成功を収めることができたのは、体育祭部門員や事務の方々、たくさんの先生方や寮長・副寮長の協力があったからです。また何より盛り上げてくれた学生の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。



白熱のドッジボール対抗戦

保健医療学部看護学科 橋本 晴子 (下北沢成徳高等学校出身)

ハロウィンパーティーの午前中、コンバ対抗の催しとしてドッジボール大会を行いました。コンバ対抗のみならず、体育祭の再燃として各寮のフロア対抗でも試合を組みました。コートでの都合上、フロア対抗戦では選抜メンバーでの試合となったため、どちらも寮生活で築いた絆をぶつけ合う白熱の戦いとなりました。

翌日に退寮を控えるなかで皆が安全に参加でき、かつ寮生活を締めくくる良い思い出になるような企画を考えることは、社会状況のことも考えると苦労もありました。当日は全入寮生がスクエアガーデンで運動をするため、運営していくうえで臨機応変に対応すべき場面が多々ありました。しかし、各寮代表のコンバ対抗部門の執行委員が協力し、ドッジボール同好会のメンバーやその他の友人らも審判や試合の運営に積極的に携わってくれたおかげで、滞りなく終えられました。

例年より制限の多い寮生活の中でこういった企画に賛同してくださった先生方、そして一緒に楽しんでくれた皆さん、ありがとうございました。



ハロウィンパーティー



ハロバ挨拶 ハロウィンパーティー実行委員長を務めて

医学部医学科 藤田 鉄平 (茗溪学園高等学校出身)

本年度の寮生活最後の、そして最高の思い出になればとの思いで、ハロウィンパーティーの実行委員長を務めさせていただきました。準備の段階では、スケジュールの管理などに悩みながらも、当日は仮装やメイクをし、私自身も楽しみながら実行委員長の任にあたりました。会場全体も盛り上がり、大成功だったと思います。その様子を見て、安心感や達成感、嬉しさごみあげ、一生の思い出となりました。

コロナ禍の今年はいろいろ規制の厳しい状況ではありましたが、各部門長、協力を惜しまぬ学生たち、先生方、事務課ならびに食堂の方、自然教育園の担当者の方など、多くの皆さまのご協力のおかげで実施することができました。本当にありがとうございました。

ジャック・オー・ランタン作り

保健医療学部看護学科 村本 美織 (長崎県立長崎西高等学校出身)

私は富士吉田キャンパスの自然教育園でジャック・オー・ランタン作りに参加しました。まずは自分の好きなかぼちゃを選ぶのですが、その形や大きさ、色はほんとうに様々で、どれにするか迷うほどでした。かぼちゃが決まったらデザインを考え、くり抜いたり彫ったりして作っていきます。完成までは、凍える寒さを忘れるほど、あっという間に時間が過ぎていきました。皆が作った作品は、それぞれ個性豊かで可愛らしく、完成度の高いものばかりで、鑑賞することも楽しみとなりました。豊かな自然に恵まれた環境でのこの経験は、とても思い出に残るものでした。

今年はコロナ禍の大変な状況で、入寮さえも諦めなければならぬかと覚悟していましたが、先生方や関係する皆様様の御尽力により寮生活が実現でき、このジャック・オー・ランタン作りをはじめ、いろいろな経験をさせていただけたことに感謝の思いでいっぱいです。充実した生活の中でたくさんのことを学びました。ありがとうございました。



装飾

ハロウィンパーティーの装飾

歯学部歯学科 米山 賢介 (サレジオ学院高等学校出身)

11月1日に開催されたハロウィンパーティーで装飾部門の部門長をさせていただきました。私は、スクエアガーデン内と噴水前の装飾を主に行いました。スクエアガーデン内の装飾では、大きな紙に思い出の写真を張り付け、デコレーションを施したポスターをコンパごとに作ってもらい、掲示しました。それぞれのコンパの雰囲気が出ておもしろかったです。噴水前にはジャック・オー・ランタンを並べたフオトスポットを設けました。写真撮影の行列ができていたのを見たと時には、装飾に携われて本当によかったと思いました。はじめは務めが果たせるか不安でしたが、多くの仲間たちの支えによって無事に



やり遂げることができたと思います。最後に、装飾を行うにあたって事務課の方々、自然教育園の先生方、ボイラー担当の方々など多くの方のお世話になりました。本当にありがとうございました。

ビンゴ

やったあ!ビンゴ当たりだ!景品?いやいや"宝物"だよ

歯学部歯学科 坂井 笙乃

皆さん、パーティーといえは何を思い浮かべますか?私は…そうです!“ビンゴ大会”!“ビンゴ”は、やはり“景品”にワクワクされるのではないのでしょうか?

今回、私はビンゴ部門実行委員を務めました。今年度は“景品”を単なる“当たりの商品”ではなく、寮生活中のコンパの先生方とも思い出を共有できる大切な“宝物”にしたい、と考え、コンパの先生方にも“宝物”のご協力をしていただきました。“宝物”は、先生方のお顔が思い浮かぶようなものばかりで、皆の寮生活の思い出として心に刻まれたことと思います。

私自身、心優しい実行委員のメンバーや寮生活で出会った大切な仲間、助けられ、委員の仕事が無事に行うことができました。また、先生方におかれましても、お忙しい中、景品である“宝物”のご協力をしていただき、まことにありがとうございました。出会えた仲間、先生方に感謝し、助け合いの精神を将来のチーム医療に活かしたいと思います。



花火

寮生活を締めくくる花火

保健医療学部作業療法学科 金崎 溪夏 (神奈川県立鶴見高等学校出身)

退寮前日である11月1日に、行われたハロウィンパーティーの最後に花火が上がりました。キャンパス敷地内に花火師さんが来てくださり、花火が当たってしまうのではないかと、思ってしまうほど近くで見ることができました。とても迫力があるとともに、今まで見たことがない種類の花火も見ることができ、感動しました。

と同時に、この花火が終わってしまったら富士吉田キャンパスでの寮生活もまた終わってしまうのだと思い、2か月間の思い出が次々と心に浮かびました。新型コロナウイルスの影響で2か月間という短い期間でしたが、いい思い出ばかりでした。花火は、寮生活の最後を締めくくる最高の思い出となりました。



イベント

イレギュラーだらけのハロウィンパーティー

イベント部門長 薬学部薬学科 日高 颯斗 (サレジオ学院高等学校出身)

今年の寮生活は新型コロナウイルス感染症の拡大により、例年とは全く異なる期間、全く異なる状況下でのイレギュラーなものとなってしまいました。しかし、そうした中でも多くの思い出を作ることができるようにと、企画を進める私たちのためにご尽力くださった事務の方や先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

また、限られた時間の中でも参加者が楽しむことができると、イベント部門の企画として、同好会や有志によるステージの出演希望もありました。素晴らしい演奏やダンスを披露してくれたおかげで、当日は予想以上の盛り上がりを見せ、ハロウィンパーティー出演者、参加者、運営に携わった者はもちろん、全ての学生にとって忘れられない思い出のひとつになったのではないかと思います。

最後にイベント部門を運営するにあたり、協力してくださった全ての方へ心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

